

医学教育分野別評価 横浜市立大学医学部医学科 年次報告書

2025(令和7)年度

医学教育分野別評価の受審 2023(平成5)年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

はじめに

本医学部医学科は、令和5(2023)年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和6(2024)年10月1日より7年間の認定期間が開始した。

評価報告書において、本学医学部の強み・弱みが明確に示され、目指す方向性を教職員で共有することができた。改善を助言・示唆いただいた事項については、速やかに改善に取り組むとともに、良い点(特色)として評価された点については、より一層充実させ、医学教育の質向上に努める。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 を踏まえ、令和6(2024)年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和5(2023)年12月1日～令和7(2025)年3月31日を対象としている。

1. 使命と学修成果

領域1.3における「改善のための助言」を受け、ミッション、3ポリシー、コンピテンシーおよびロードマップについて、医学教育センターホームページに掲載した。今後は、学修成果の策定や改訂について、患者や、地域住民、地域医療の代表者、外部の専門家などからの意見を聴取する仕組づくりが課題である。

1.1 使命

基本的水準

特色ある点

- ・ 2017年に医学部の使命を再定義している。

改善のための助言

- ・ 使命とディプロマ・ポリシーやコンピテンシーとの整合性をより明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 使命、3ポリシー、コンピテンシーについて、毎年学生が参加する各部門会議で点

検し、医学教育推進部門会議で修正の可否について検討を行っている（資料1）。使命とディプロマ・ポリシーやコンピテンシーとの整合性について、多くの学生や学外の医療従事者からのヒアリングを行うことも検討する。

- ・ 特色ある教育プログラムを検討するため、医学部長（医学教育センター長）の特命による医学教育改革プロジェクトを医学教育センターに立ち上げた。医学教育改革プロジェクトにて使命とディプロマ・ポリシーやコンピテンシーとの整合性について検討する（資料2）。

改善状況を示す根拠資料

資料1 2024年度3月医学教育推進部門会議議事録

資料2 医学教育改革プロジェクトについて

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特色ある点

- ・ 医学教育センターが中心となって、カリキュラムが作成されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 特色ある教育プログラムを検討するため、医学部長（医学教育センター長）の特命による医学教育改革プロジェクトを医学教育センターに立ち上げた（資料2）。
- ・ 「基幹教員制度」の本学での導入に向けて、医学科全教員を構成員とする「拡大医学教育センター会議」を設置予定であり、会議の中で最終的なカリキュラム案の協議をすることを検討している（資料3）。

改善状況を示す根拠資料

資料2 医学教育改革プロジェクトについて

資料3 「医学科における基幹教員制度の導入について」2024年12月11日教授会資料

1.3 学修成果

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医療を受ける側、医療を提供する側、その他の社会からの要請を聞き、学修成果を定めるべきである。
- ・ 学生がとるべき適切な行動について、学則・行動規範等に記載すべきである。
- ・ 学内外の関係者に学修成果を確実に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料2）。
- ・ 地域の病院やクリニック、福祉施設などの学外実習先より、学生の学習状況のフィードバックを各教室が受け、カリキュラムの改善点を検討するとともに、学生個人へのフィードバックを行っている。患者さん、地域住民からのヒアリングも検討する。
- ・ 使命、3ポリシー、コンピテンシーについて、毎年学生が参加する各部門会議で点検し、医学教育推進部門会議で修正の可否について検討を行っている（資料1）。使命とディプロマ・ポリシーやコンピテンシーとの整合性について、多くの学生や学外の医療従事者からのヒアリングを行うことも検討する。
- ・ 行動規範について、他大学の状況を調査している一方で、医学科生に求める倫理観などについては、各種オリエンテーションで教育している（資料4、5）。医学教育改革プロジェクトにおいて、学生がとるべき適切な行動について、学則・行動規範等に記載することを検討する。
- ・ コンピテンシーとマイルストーン、ロードマップについて、学生からの要望を踏まえて全体像をシラバスに掲載することとした（資料6）。
- ・ ミッション、3ポリシー、コンピテンシーおよびロードマップについて、医学教育センターホームページに掲載した（資料7）。今後保護者説明会での周知についても検討する。
- ・ 医学科カリキュラム全体の周知を目的としたFD動画の作成について準備をしている。

改善状況を示す根拠資料

資料1 2024年度3月医学教育推進部門会議議事録

資料2 医学教育改革プロジェクトについて

資料4 2025年度新入生研修資料「医学生に求められるモラル」

資料5 2024年度 医学科新5年生向け病棟実習前オリエンテーション資料
「病棟実習・学生生活におけるモラル・マナー・エチケット」

資料6 2025年度第3回基礎医学部門会議議事録

資料7 医学教育センターホームページ「理念」

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 国際保健に関する学修成果をより明確に示すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 使命、3ポリシー、コンピテンシーについて、毎年学生が参加する各部門会議で点検し、医学教育推進部門会議で修正の可否について検討を行っている（資料1）。
- ・ 医学教育改革プロジェクトの中で、国際保健に関する学修成果について検討する（資料2）。

改善状況を示す根拠資料

資料1 2024年度3月医学教育推進部門会議議事録

資料2 医学教育改革プロジェクトについて

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命と学修成果の策定・見直しを行う際には、学生に対する意見聴取に加え、学生を含む教育に関わる主要な構成者が確実に参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 使命、3ポリシー、コンピテンシーについて、毎年学生が参加する各部門会議で点検を行い、医学教育推進部門会議で修正の可否について検討を行っている（資料1）。見直す際には広く学生に意見を聴取するしくみを検討する。
- ・ 「基幹教員制度」の本学での導入に向けて、医学科全教員を構成員とする「拡大医学教育センター会議」を設置予定であり、会議の中で ミッション、3ポリシーについて、点検することを検討している（資料3）。

改善状況を示す根拠資料

資料1 2024年度3月医学教育推進部門会議議事録

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命と学修成果の策定・見直しを行う際には、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 「基幹教員制度」の本学での導入に向けて、医学科全教員を構成員とする「拡大医学教育センター会議」を設置予定であり、会議の中で ミッション、3ポリシーについて、点検することを検討している（資料3）。
- ・ 使命と学修成果の策定や改訂について、患者や、地域住民、地域医療の代表者、外部の専門家などからの意見を聴取する仕組みを検討している。

改善状況を示す根拠資料

資料3 「医学科における基幹教員制度の導入について」2024年12月11日教授会資料

2. 教育プログラム

領域2.4における「改善のための助言」を受け、医療法学において体系的なカリキュラムを構築すること、また、領域2.5における「改善のための助言」を受け、学生が計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つようカリキュラムを構築することが今後の課題といえる。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特色ある点

- ・ TBL や PBL を取り入れ、学生の学修意欲を刺激するプログラムを導入している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 4年次の「症候・病態」授業を全10回、TBL形式で実施した。水平的統合を促進す

るためテーマに関連する臨床系教室が合同で授業を行ったことに加え、垂直的統合を促進するため、「腰背部痛」へ神経解剖学教室、「嚥下困難・障害」へ生理学教室の基礎系教室も参加した（資料8）。

- ・ 2年次の「免疫学」および「免疫学実習」において、全3回PBLチュートリアルを行っている。（資料9、10）
- ・ 1年生の4月に行われる新入生研修では、グループワークを取り入れ、倫理・モラルに関するテーマで学生間でのディスカッションと、発表を通じてその振り返りを行っている。また、グループワークにはファシリテーターとして、教員だけでなく上級生も加わっている（資料11）。
- ・ 1年次の「教室体験演習」において、医学教育学教室ではハワイ大学で学んだ教員によるPBLを毎年実施している。
- ・ 4～6年次の臨床実習において、呼吸器内科や脳神経外科では毎年ハワイ大学で学んだ教員によるPBLを実施している。

改善状況を示す根拠資料

資料8 2024年度教育要項4年生 「症候・病態」シラバス

資料9 2024年度教育要項2年生 「免疫学」シラバス

資料10 2024年度教育要項2年生 「免疫学実習」シラバス

資料11 2024、2025年度新入生研修グループワーク概要

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 生涯学習につながるカリキュラムをさらに充実することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料2）。
- ・ 6年次生講義「社会医学」において、医師のキャリアについての講義を行っている（資料12）。
- ・ 新入生オリエンテーション、新入生研修において、生涯学習につながる自己研鑽と能動的学習の重要性について、学ぶ機会を設けている（資料13）。
- ・ 生涯学習につながるよう、4年次の「症候・病態」授業を全10回、アクティブラーニングであるTBL形式で実施した。水平的統合を促進するためテーマに関連する臨床系教室が合同で授業を行ったことに加え、垂直的統合を促進するため、「腰背部痛」

- へ神経解剖学教室、「嚥下困難・障害」へ生理学教室の基礎系教室も参加した（資料 8）。
- ・ 毎年、海外実習（派遣プログラム）に参加した学生の「海外実習報告会」を主に下級生へ向けて開催している（資料 14）。
 - ・ 2019 年度より毎年、PBL をテーマとしたプログラムを提供するハワイ大学の派遣プログラムへ教員を派遣している。2024 年度は、1 名の教員をハワイ大学で行われている PBL workshop へ参加させた。また、帰国後、参加した教員の体験を医学部教員に共有するため、報告会の開催や報告動画の配信を行った。

日程	実施内容
2024 年（令和 6 年） 2 月 7 日（水）	ハワイ大学 PBL-Hawaii Style Workshop 報告会 ⇒2023 年 10 月、ハワイ大学の教員対象課題解決型学習ワークショップに参加した公衆衛生学教室後藤温教授の経験を医学部教員に共有した。
10 月 15 日（火）～ 10 月 18 日（金）	PBL-Hawaii Style Workshop ⇒がん総合医科学 窪田賢輔教授をハワイ大学（教員対象課題解決型学習ワークショップ）に派遣。
2025 年（令和 7 年） 2 月 2 月 14 日～3 月 14 日（オンデマンド 配信）	2024 年 10 月 PBL-Hawaii Style Workshop 参加報告（F D） ⇒2024 年 10 月、ハワイ大学のワークショップに参加した窪田教授の経験を医学部教員に共有した。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 12 2024 年度教育要項 6 年生「社会医学」シラバス

資料 13 2024 年度新入生研修、新入生オリエンテーションスライド

資料 8 2024 年度教育要項 4 年生「症候・病態」シラバス

資料 14 2024 年度「海外実習報告会」

2. 2 科学的方法

基本的水準

特色ある点

- ・ 1 年次に教室体験演習として、学生が医学研究に触れる機会を設けている。

改善のための助言

- ・ 臨床実習で EBM の教育を実践する機会を十分持つべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 東日本研究医養成コンソーシアムへの学生の参加を奨励し、交通費や参加費を一部負担している。その際には、教員も同行している。学生にはより一層、呼びかけ・東日本研究医養成コンソーシアムへの学生の参加を促す（資料 15）。
- ・ 「研究実習（リサーチ・クラークシップ）」での研究成果を学会・論文として発表し、その功績として医学部長賞を受賞している学生もいる。（資料 16）
- ・ 学生の学会発表を奨励し、一部の学生は学会賞などを受賞している（資料 17、18）。
- ・ 図書館では、窓口において各種データベースの使い方について個別に指導した（2024 年度学生を対象としたレファレンス実績：160 件）（資料 19）ほか、2021 年度よりデータベース（医中誌 Web、PubMed、EndNote）のガイダンス資料を Web サイト（https://opac.yokohama-cu.ac.jp/drupal/ja/guide_mlib）に公開し、いつでも確認できるようにしている。また、学生も参加可能である Web of Science のセミナーを開催している。2021 年度からは診療支援システムを学生が使用することが可能となった。
- ・ 4 年次のオリエンテーションの中でも医学系データベースの使い方と文献検索のガイダンスを実施している。（資料 20）
- ・ 3 年次「疫学・予防医学」の授業では、EBM に関する授業を行っている。（資料 21）
- ・ 4、5、6 年次の臨床実習で、EBM 教育を取り入れるように各診療科のシラバスに記載し、実行することを目標としている。

改善状況を示す根拠資料

資料 15 2024 年東日本研究医養成コンソーシアム開催概要

資料 16 2024 年度医学部長賞応募要項、受賞

資料 17 2024 年度 学生の学会発表・論文投稿

資料 18 本学ホームページ「日本高血圧学会総会で Young Investigator's Promotion 賞を受賞」

資料 19 学術情報センター 統計作成用 基礎データ D. サービスに係ること

資料 20 2024 年度 4 年次オリエンテーション資料

資料 21 2024 年度教育要項 3 年生「疫学・予防医学」シラバス

2.3 基礎医学

基本的水準

特色ある点

- ・ 生理学実習において、シミュレータを活用し、臨床医学を意識した教育を行っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 3年次に「病態代謝生理学」の講義を行っている。そこでは生化学と生理学の教員が講義を受け持っており水平的統合を意識した講義を行っている（資料22）。
- ・ 「解剖・発生学」の実習において、生理学教員の参加で水平的統合を目指し、臨床教員（放射線診断学・脳神経内科・耳鼻咽喉科・麻酔科等）の参加で垂直的統合を目指した教育を行っている（資料23）。

改善状況を示す根拠資料

資料22 2024年度教育要項3年生「病態代謝生理学」シラバス

資料23 2024年度教育要項2年生「解剖・発生学」シラバス

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 行動科学、医療法学において責任者を定めて体系的なカリキュラムを構築し、実践すべきである。
- ・ 行動科学および医療倫理学教育を臨床実習において確実に実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学科2年次の「医療コミュニケーション論」において、行動科学と医療コミュニケーションの理論と実践方法を体系的に学んでいる。医学教育学主任教授が科目責任者として実施している（資料24）。また、医学科3年次の「医療倫理学」において、特に臨床現場における倫理的課題について、少人数グループディスカッションなども積極的に取り入れ、能動的に学習を行っている。医学教育学主任教授が科目責任者として実施している（資料25）。今後体系的なカリキュラム構築を目指し、体制を整えていく。
- ・ 医療法学においては、医事法制については「法医学」（資料26）、社会保障制度、医療制度については「地域保健医療学」（資料27）、個人情報保護については「疫学・予防医学」（資料21）や病棟実習前オリエンテーション、カルテ記載については「基本的診療技能」（資料28）、薬物投与と法規制については「薬理学」（資料29）、司法精神医学については「精神医学」（資料30）、臓器移植については「医療倫理学」（資料25）と「外科学」（資料31）などにおいて取り扱っており、それぞれに科目責任者がいる。今後体系的なカリキュラム構築を目指し、体制を整えていく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 24 2024 年度教育要項 2 年生「医療コミュニケーション論」シラバス
- 資料 25 2024 年度教育要項 3 年生「医療倫理学」シラバス
- 資料 26 2024 年度教育要項 3 年生「法医学」シラバス
- 資料 27 2024 年度教育要項 3 年生「地域保健医療学」シラバス
- 資料 21 2024 年度教育要項 3 年生「疫学・予防医学」シラバス
- 資料 28 2024 年度教育要項 4 年生「基本的診療技能」シラバス
- 資料 29 2024 年度教育要項 2 年生「薬理学」シラバス
- 資料 30 2024 年度教育要項 3 年生「精神医学」シラバス
- 資料 31 2024 年度教育要項 3 年生「外科学」シラバス

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることについて、カリキュラムを調整することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 地域社会への問題に対応するために、2025 年度より「地域医療・在宅医療学講座（神奈川県による寄付講座）」を設置した。本講座は診療教授 1 名、特任助教 1 名、特任助手 1 名の体制をもって、「地域医療に関する調査及び人材育成、地域における教育体制等の研究を行っている（資料 32）。
- ・ 神奈川県からの要請を受け、2024 年度入試から指定診療科枠を 3 名増員し、医学科定員を 93 名とした（資料 33）。
- ・ 今後、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることについてのニーズ調査、情報収集をヘルスデータサイエンス専攻と協力しながら実施することを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 2 医学教育改革プロジェクトについて
- 資料 32 神奈川県との寄附講座の設置に係る協定書

2. 5 臨床医学と技能

基本的水準

特色ある点

- ・ 長期にわたって「外科寺子屋」を開講し、外科手技についてきめ細かな指導を行っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 総合診療科/家庭医学を含めた主要な診療科での実習期間を十分に確保すべきである。
- ・ 学生が診療録を記載できるよう電子カルテ記載の方針を定めるべきである。
- ・ 学生が計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 2024 年度の総合診療科での実習期間は 2 週間であり、自由選択実習として追加で 4 週間実習することができる。医学教育改革プロジェクトにおいて、総合診療科/家庭医学を含めた主要な診療科での実習期間の拡充を検討していく。
- ・ 2026 年度に大学附属 2 病院の医療情報システムを統合する予定であり、次期システムでは学生がカルテに記載できる機能を組み込む予定としている。2025 年度関係諸会議での審議へ向けて、調整を行っている。
- ・ 1 年次科目に患者と接する教育プログラムとして「福祉施設実習」と「教室体験演習」を行っており、2 年次、3 年次にも患者と接する教育プログラムを検討している（資料 34、35）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 34 2024 年度 1 年生「福祉施設実習」シラバス

資料 35 2024 年度 1 年生「教室体験演習」シラバス

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 1年次だけでなく、2～3年次にかけて段階的に学生が患者と接触する機会を十分に持つカリキュラムを構築することが望まれる。
- ・ 教育プログラムの進行に合わせ、さまざまな臨床技能教育が行われるように教育計画を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料2）。
- ・ 1年次科目に患者と接する教育プログラムとして「福祉施設実習」と「教室体験演習」を行っており、2年次、3年次にも患者と接する教育プログラムを検討している（資料34、35）。
- ・ 4年次「基本的診療技能」では、OSCEに向けてシミュレータを用いた実技教育を行っている。（資料28）
- ・ 2年次の「医療コミュニケーション論」、3年次の「医学英語」で医療面接の講義・実習を行っている（資料24、36）。
- ・ 「生理学実習」において、心電図、血圧、エコー、血糖測定、感覚の診察などについて取り扱っている（資料37）。
- ・ 4、5、6年次の臨床実習において、学生が経験した患者数・疾患分類をCC-EPOCで把握、グラフ化し、臨床・病棟部門会議、センター会議、教授会で結果を報告することで、医学科内に共有した（資料38）。

改善状況を示す根拠資料

資料2 医学教育改革プロジェクトについて

資料34 2024年度1年生「福祉施設実習」シラバス

資料35 2024年度1年生「教室体験演習」シラバス

資料28 2024年度教育要項4年生「基本的診療技能」シラバス

資料24 2024年度教育要項2年生「医療コミュニケーション論」シラバス

資料36 2024年度教育要項3年生「医学英語」シラバス

資料37 2024年度教育要項2年生「生理学実習」シラバス

資料38 2024年度6年次CC-EPOC集計結果

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基礎医学および臨床医学領域での水平的統合教育を確実に実施することが望まれる。
- ・ 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合教育を確実に実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 2 年次の「解剖・発生学」の実習において、生理学教員の参加で水平的統合を目指し、臨床教員（放射線診断学・脳神経内科・耳鼻咽喉科・麻酔科等）を招いて、垂直的統合を目指した教育を行っている。（資料 23）
- ・ 4 年次の「症候・病態」授業を全 10 回、TBL 形式で実施した。水平的統合を促進するためテーマに関連する臨床系教室が合同で授業を行ったことに加え、垂直的統合を促進するため、「腰背部痛」へ神経解剖学教室、「嚥下困難・障害」へ生理学教室の基礎系教室も参加した（資料 8）。
- ・ 5 年次「病理示説」において病理学と臨床系教室の協力のもと、CPC 見学や発表を行っている（資料 39）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 23 2024 年度教育要項 2 年生「解剖・発生学」シラバス

資料 8 2024 年度教育要項 4 年生「症候・病態」シラバス

資料 39 2024 年度教育要項 5 年生講義日程（「病理示説」スケジュール）

2.7 教育プログラム管理

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラム委員会として位置づけられている「医学教育センター会議」に、教員の代表に加えて、学生の代表が含まれるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センター会議に 2・4・6 年次の学生代表者が参加するよう調整し、2025

年7月から参加することとなった（資料40）。

- ・ 新たに立ち上げた医学教育改革プロジェクトにおいて、学生委員の参加を検討している（資料2）。

改善状況を示す根拠資料

資料40 令和7年度医学教育センター会議構成員一覧

資料2 医学教育改革プロジェクトについて

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 「医学教育センター会議」に広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 「基幹教員制度」の本学での導入に向けて、医学科全教員を構成員とする「拡大医学教育センター会議」を設置することを検討している（資料3）。
- ・ 医学教育センター会議に「地域保健医療学」を担当する教室の代表が参加し、地域の医療機関、保健所、衛生研究所などの教育者の意見を必要に応じ代弁する体制となっている。また両病院の臨床研修センター長をオブザーバーに加えている。（資料40）
- ・ 「医学教育センター会議」に、患者や、地域住民、地域医療の代表者、外部の専門家などからの意見を聴取する仕組みを検討している。
- ・ 医学部医学科教授会（代議員会）および医学教育センター会議、医学群教学 IR 検討ワーキングに、アドミッションズセンター専門職員（学務准教授）が出席している（資料41）。

改善状況を示す根拠資料

資料3 「医学科における基幹教員制度の導入について」2024年12月11日教授会資料

資料40 令和7年度医学教育センター会議構成員一覧

資料41 令和7年度医学群教学 IR 検討ワーキング構成員一覧

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 統一性のある卒前・卒後教育プログラム作成にむけた討議を行う体制を整備して、卒前教育と卒後の教育・臨床実践との連携を適切に図るべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 卒後臨床研修センターのセンター長が医学教育センター会議に出席し卒後教育プログラムと連携する体制が維持されている。（資料 40）
- ・ 臨床研修センターの教員が卒前教育に連携しており、卒後教育プログラム側の意見もフィードバックされる体制となっている。
- ・ 2024 年 8 月の医学科保護者説明会において、初期研修と大学院を並行して行う基礎研究医コースに在籍している本学卒業生による講演を行った。（資料 42）
- ・ 臨床研修の到達目標と卒前教育の到達目標の整合性を確認しつつ、2022 年 1 月から CC-EPOC を導入し、継続的に利用している（資料 38）。
- ・ 2026 年度臨床研修説明会について、医学科 5・6 年次だけでなく全学年から募集を行った（資料 43）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 40 2025 年度医学教育センター会議構成員一覧

資料 42 2024 年度保護者説明会資料

資料 38 2024 年度 6 年次 CC-EPOC 集計結果

資料 43 横浜市立大学附属 2 病院 2026 年度臨床研修説明会のご案内

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学群教学 IR 検討ワーキングにおいて、卒業生アンケートの実施に向けた検討を

行った。プログラム評価委員会においても、卒業生アンケートの実施に向けた検討をしていることについて情報共有し、同窓会組織へも協力を依頼した(資料 44、45)。

- ・ 医学群教学 IR 検討ワーキングにおいて今後、卒業生の進路を把握し、さらに専門医の取得や大学院への進学および学位の取得の状況を調査する。
- ・ 健康管理室が学生から職員まで含め健康管理を行っている。卒業生が働いている附属病院の研修医の健康に関する情報については、健康管理室定例会で共有されるとともに、卒前の学生の情報も共有し、双方向性の連携体制が築かれており、医学部のカリキュラムに活かすことができている。

改善状況を示す根拠資料

資料 44 医学群教学 IR 検討ワーキング議事録

資料 45 2024 年度医学部医学科プログラム評価委員会議事録

3. 学生の評価

領域 3.2 における「改善のための助言」を受け、形成的評価と総括的評価の方針について明示すべく、教育要項への具体的な記載を進めた。Mini-CEX や 360 度評価等の普及を図ることが今後の課題といえる。

3.1 評価方法

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 合格基準、進級基準に加え、追再試の回数を開示すべきである。
- ・ それぞれの科目において、知識、技能、態度における評価を確実に行うべきである。
- ・ 臨床実習において臨床現場における知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。
- ・ 評価を外部の専門家によって精密に吟味すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 合格基準、進級基準、および追再試の回数について、教育要項での開示を進めた(資料 23、46、47)。今後も開示を進める。また、シラバスの組織的確認について検討する。
- ・ 知識、技能、態度を適正に評価するため、特に基礎科目においては、教育要項にこれらの項目に関する具体的な記載を進めた(資料 23、46、47)。臨床科目においては、後述の取り組みに加え、これまで通り CBT(2024 年 11 月 7 日実施) Pre-CC OSCE

(2024 年 12 月 15 日実施)、Post-CC OSCE (課題数 6 にて特例実施、2024 年 10 月 26 日実施) を実施し、知識、技能および態度を含む評価を実施した。

- ・ 臨床実習において多面的な評価を確実に実施すべく、特に CC-EPOC の活用促進に取り組んだ。その結果、2024 年度末時点ではほとんどの実習科で利活用が進んでいる。また、学生が経験した患者数・疾患分類を CC-EPOC で把握、グラフ化し、臨床・病棟部門会議、センター会議、教授会で結果を報告することで、医学科内に共有した (資料 38)。今後も利活用を進めていく。また、この利活用を更に広めるための教員 FD として、外部講師 (北海道大学、高橋誠先生) による CC-EPOC に関する講演動画をオンデマンド配信した (2023 年 9 月 28 日実施、資料 48)。
- ・ 臨床実習における態度面の評価実施にも焦点を当て、外部講師 (名古屋大学、錦織宏先生) による教職員 FD を実施した (2024 年 8 月 5 日実施、資料 49)。
- ・ 学生評価を外部の専門家によってより精密に吟味すべく、「プログラム評価委員会」の充実を図り、「横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程」を改正した (資料 50)。また、共用試験 (CBT および OSCE) にご協力頂いた外部評価者からも、本学の学生評価の実施方法に関するフィードバックを受け、今後の実施に活かしている (24 年 10 月実施、資料 51)。今後もこれらの取り組みを継続的に実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 23 2024 年度教育要項 2 年生「解剖・発生学」シラバス

資料 46 2024 年度教育要項 2 年生「組織学」シラバス

資料 47 2024 年度教育要項 2 年生「生理学」シラバス

資料 38 2024 年度 6 年次 CC-EPOC 集計結果

資料 48 医学教育センターFD「臨床実習の評価記録ツール CC-EPOC」

資料 49 医学部医学科・看護学科合同 FD・SD「評価を学習者の味方に！－実習における態度評価に焦点を当てて－」

資料 50 横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程

資料 51 2024 年度臨床実習後 OSCE 講評

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ CC-EPOC の記録に対する学生へのさらなるフィードバックが望まれる。
- ・ Mini-CEX や 360 度評価等の普及を図ることが望まれる。
- ・ 臨床実習を含むさまざまな評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- CC-EPOC の記録に対する学生へのフィードバックを更に充実させるべく、前述のとおり CC-EPOC の活用促進に取り組んだ。その結果、2024 年度末時点ではほとんどの実習科で利活用が進んでいる。また、学生が経験した患者数・疾患分類を CC-EPOC で把握、グラフ化し、臨床・病棟部門会議、センター会議、教授会で結果を報告することで、医学科内に共有した（資料 38）。この利活用を更に広めるための教員 FD として、外部講師（北海道大学、高橋誠先生）による CC-EPOC に関する講演動画をオンデマンド配信した（2023 年 9 月 28 日実施、資料 48）。今後は学生に早期の入力を促すことで、実習期間中のフィードバックを目指していく。
- Mini-CEX や 360 度評価等の普及については、公正性も含めて継続的に検討を行っている。
- 臨床実習を含むさまざまな評価方法の信頼性と妥当性を検証すべく、前述のとおり「プログラム評価委員会」の充実を図り、「横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程」を改正し、医学群教学 IR ワーキングの代表者をメンバーとして追加した（資料 50）。
- 臨床実習を含むさまざまな評価方法の信頼性と妥当性を検証する一助として、医師国家試験の結果については、引き続き医学群教学 IR ワーキングを中心に CBT 結果との相関等に注目して評価を行っている。これらの評価結果を踏まえた対応策については、卒業試験の実施方法も含めて臨床・病棟部門や医学教育センター会議にて検討する体制となっている。今後もこの体制を充実させ、臨床実習を含むさまざまな学生評価の信頼性・妥当性について検証・検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 38 2024 年度 6 年次 CC-EPOC 集計結果

資料 48 医学教育センターFD「臨床実習の評価記録ツール CC-EPOC」

資料 50 横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程

3. 2 評価と学修との関連

基本的水準

特色ある点

- コンピテンシーに基づいたマイルストーンを学年ごとに設定している。

改善のための助言

- コンピテンシーを学生が達成していることを保証する評価を行うべきである。
- それぞれの科目での形成的評価と総括的評価の方針をシラバスに明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 卒業時コンピテンシーを学生が達成していることを保証する評価を行うべく、これに即して設定した学年ごとのマイルストーンを基準にした評価の導入を準備している。また、コンピテンシー達成レベル表を作成し、学生が LMS のポートフォリオ内で達成度をレーダーチャートで確認できるようにしている（資料 52）。
- ・ 形成的評価と総括的評価の方針について明示すべく、教育要項への具体的な記載を進めた（資料 53）
- ・ 医学教育センターを中心とする体制により、 今後も以上の取り組みを推進していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 52 LMS ポートフォリオ参照画面

資料 53 2025 年度のシラバスについて

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 評価結果に基づいた適時の適切なフィードバックを行うべく、形成的評価のより積極的な実施に取り組んでいる。前述のとおり、この方針について教育要項への具体的な記載や、CC-EPOC の活用促進などに取り組んでいる（資料 53）。
- ・ 成績や態度面でフォローが必要と考えられる学生に対する、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことができるように、講義・実習担当者、科目責任者、学生担任教員、医学教育推進課職員が連携している。具体的には、月 1 回の各学年を担当する部門会議において、成績や態度面でフォローが必要と考えられる学生の情報が共有・協議され、公正なフィードバックを行っている。
- ・ 成績優秀者特待生、医学部長賞、リサーチ・クラークシップ発表会優秀賞、海外実習報告会などによって時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行っている（資料 54、16、55）。

改善状況を示す根拠資料

資料 53 2025 年度のシラバスについて

資料 54 2024 年度成績優秀者特待生表彰式 開催報告

資料 16 2024 年度医学部長賞応募要項、受賞

資料 55 リサーチ・クラークシップ 2024 優秀賞について

4. 学生

- ・ 領域 4.1 における「改善のための示唆」を受け、入学決定に対する疑義申し立て制度の導入について、医学科入試運営部会で導入に向けて検討することを確認した。今後、他学部との調整を図り、2026（令和 8）年度の募集要項にその内容を盛り込む予定である。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特色ある点

- ・ 一般選抜、特別公募制学校推薦型選抜、国際バカロレア特別選抜など、多様な入学選抜を実施している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 神奈川県からの要請を受け、2024 年度入試から指定診療科枠を 3 名増員し、医学部医学科の入学定員を 93 名とした（資料 33）。
- ・ 入学定員 93 名のうち、顕在化してきた医師不足に対し、地域医療機関における医師確保の安定化に寄与するため、地域医療枠 25 名、神奈川県指定診療科枠 8 名を設けている。医学科特別学校推薦型選抜入試の募集人員は地域医療枠および神奈川県指定診療科枠の中に含まれ、県内高校区分として医学部医学科 13 名（地域医療枠 10 + 神奈川県指定診療科枠 3）、県外高校区分として医学部医学科 8 名（地域医療枠 6 + 神奈川県指定診療科枠 2）である。また、国際バカロレア特別選抜として 2 名の入学定員を定めた。（資料 56）
- ・ また特別公募制学校推薦型選抜入試においては、Multiple Mini Interview (MMI) の手法を取り入れた面接試験を実施しており、受験者に対して 1 回の面接ではなく、受験者が評価項目別の面接室を巡るようにし、各々独立した短めの面接を複数回行うことにより多面的に評価している。（資料 56）

改善状況を示す根拠資料

資料 33 2025 年度入学者選抜要項

資料 56 2025 年度特別公募制学校推薦型選抜・国際バカロレア特別選抜

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ アドミッション・ポリシーの見直しを毎年行っている。

改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用し、明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 使命、3 ポリシー、コンピテンシーについて、毎年各部門会議で点検し、医学教育推進部門会議で修正の可否について検討を行っている（資料 1）。
- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度の導入について、医学科入試運営部会で導入に向けて検討することを確認した。具体的には 2026（令和 8）年度の募集要項にその内容を盛り込むべく、他大学での事例を調査し、他学部とも調整を図っていく予定である（資料 57）。

改善状況を示す根拠資料

資料 1 2024 年度 3 月医学教育推進部門会議議事録

資料 57 2024 年度第 5 回医学科入試運営部会議事録

4. 2 学生の受け入れ

基本的水準

特色ある点

- ・ 学生の受け入れ数増加に対応して、教員を増員し、講義室・実習室の座席数や教育資源を増設している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 地域社会への問題に対応するために、2025 年度より「地域医療・在宅医療学講座（神奈川県による寄付講座）」を設置した。本講座は診療教授 1 名、特任助教 1 名、特任助手 1 名の体制をもって、「地域医療に関する調査及び人材育成、地域における教育体制等の研究を行っている（資料 32）。
- ・ 2024 年度は、学習環境整備（西日対策のカーテン取り付け、ヘボンホール床のカビ

対策集中清掃、学生ロッカー前室への電子錠取り付け等）を行った。引き続き、教育環境を整えていく（資料 45）。

- ・ 老朽化した解剖実習室の備品等（サーキュレーター、除湿器の設置、モニタ、顕微鏡の更新）について議論し、順次対応していくこととした（資料 6）。
- ・ YCU シミュレーションセンター募金の支援により、血管内治療シミュレータを導入した（資料 58）。

改善状況を示す根拠資料

資料 32 神奈川県との寄附講座の設置に係る協定書

資料 45 2024 年度医学部医学科プログラム評価委員会議事録

資料 6 2025 年度第 3 回基礎医学部門会議議事録

資料 58 シミュレーションセンターホームページ「血管内治療シミュレータが導入されました」

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 県の要請に基づき神奈川県地域医療枠と指定診療科枠を設け、入学者数を増員している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ （１）一般枠（２）地域医療枠（３）神奈川県指定診療科枠の３種類の募集枠がある。（２）および（３）は、地域医療機関における医師確保の安定化に寄与するために設けられている。（２）地域医療枠は、神奈川県内の地域医療に従事する医師を養成する。（３）神奈川県指定診療科枠は、神奈川県内で特に不足している 7 診療科（産科・小児科・麻酔科・外科・内科・救急科・総合診療科）に従事する医師を養成する。この枠では学部 1 年次～ 6 年次の 6 年間、神奈川県より修学資金の貸付を受ける。借り受けた修学資金については、本学を卒業した後、神奈川県キャリア形成プログラムに従い、初期臨床研修を含む 9 年間で県が指定する神奈川県内の医療機関の指定診療科に従事することで返還の債務は免除される。（資料 33）
- ・ 神奈川県からの要請を受け、2024 年度入試から指定診療科枠を 3 名増員し、医学科定員を 93 名とした（資料 33）。

改善状況を示す根拠資料

資料 33 2025 年度入学者選抜要項

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 担任制を含む学生のカウンセリング制度をより充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学生カウンセリングを行う際に教職員が記載する LMS 上の学生の記録(学生カルテ)の利用方法について、年度初めに学内で周知を行う体制としている。加えて、新しく担任となった教員向けに学生カルテの利用案内を行っている(資料 59、60)。一方で、学生カルテを利用することが難しいという教員の声に対応して、アクセスがしやすい Microsoft Forms でも入力できるようにした。学生カルテ作成状況、利用状況については、年々上がってきている。今後も「学生カルテ」を有効活用し、学生支援を継続して行う。
- ・ 学生は、担任を含む教員、保健管理センターの教職員、医学教育推進課の職員など、幅広く相談している実績がある。学生の情報については必要に応じて、各部門会議で共有され、連携して対応する体制となっている。
- ・ 保健管理センターのキャンパス相談にきた学生の情報については、福浦健康管理室定例会にて月 1 回共有され、必要に応じて担任や各部門に共有される体制となっている。
- ・ 年 1 回以上、学生全員に対して担任による面談を実施している。またこれに加えて、精神面・学力面等に課題のある学生に対しては、担任が個別に対応している(資料 61)。

改善状況を示す根拠資料

資料 59 学生カルテの利用案内メール

資料 60 学生カルテ操作マニュアル

資料 61 医学部医学科 担任業務取扱要領

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学修および生活上の問題がある学生に対して、組織的に対応している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 各学年の担当部門において、毎月の部門会議で担任報告を行い、学生の情報を共有している。また、医学部内にキャリア支援センターを設け、医学教育推進課の係長がこれを兼務している。（資料 62）
- ・ 学生が入学後すぐに担任を活用できるように、新入生オリエンテーション時に担任と新入生との顔合わせの時間を設けている。また、入学後早い段階で新入生と担任との面談を行うようにしている。（資料 63）
- ・ 年 1 回以上、学生全員に対して担任による面談を実施している。またこれに加えて、精神面・学力面等に課題のある学生に対しては、担任が個別に対応している。（資料 61）特に、模擬試験等の成績不振者に対しては臨床・病棟部門が中心となって教職員が面談・個別指導を行っており、留年や国家試験不合格を軽減する体制を構築している。（資料 64）
- ・ モラル教育については、1 年生の後期には、担任制度を活用して医学や医療のモラルに関わる課題について学生に考えさせるグループワークを行い、その成果をまとめて報告する発表会を実施している。（資料 65）
- ・ 引き続き、担任制による適正な学生教育・支援を継続して行う。

改善状況を示す根拠資料

資料 62 職員管理職名簿

資料 63 2025 年度新入生オリエンテーション式次第

資料 61 医学部医学科 担任業務取扱要領

資料 64 面談記録

資料 65 2024 年度後期グループプログラム全体発表会資料

4. 4 学生の参加

基本的水準

特色ある点

- ・ 「教養教育部門会議」、「基礎医学部門会議」、「臨床・病棟部門会議」、「教育プログラム評価委員会」に学生の代表が参加している。

改善のための示唆

- ・ 使命の策定、教育プログラムの策定および管理を審議する委員会、学生に関する諸事項を審議する委員会を明確にし、学生の代表が委員として参加することを規定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センター会議に2・4・6年次の学生代表者が参加するよう調整し、2025年7月から参加することとなった（資料40）。
- ・ 新たに立ち上げた医学教育改革プロジェクトにおいて、学生委員の参加を検討している（資料2）。

改善状況を示す根拠資料

資料40 2025年度医学教育センター会議構成員一覧

資料2 医学教育改革プロジェクトについて

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学生や団体の優れた活動に対して表彰制度を設けている。
- ・ 学生からの要望に基づき、学生主催による「医学研究室ツアー」を支援している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学業成績が優秀で、学生本人の自発的意志に基づき、計画的・継続的に研究活動を行い、一定の取り組み成果を上げたと認められる者を医学部長賞として、表彰している（資料16）。
- ・ 大学全体では、学術研究、スポーツ・文化、地域貢献・社会活動などの分野において活躍し、本学の名誉を高め、学内の士気を高揚した者に対して贈られる賞であるYCU Student Awardがあり、医学部医学科の学生も表彰を受けている（資料66、67）。
- ・ 本学が地域貢献の役割を十分に果たすことができるように、横浜市立大学ボランティア支援室を設置し、ボランティア活動を行う学生（個人・団体）の支援に力を入れている。
- ・ 学生が主体となり、市民の方への正しい医療知識を提供することを目的として発足した学生団体「YDC（Yokohama Dream Catchers）」が、2024年度に神奈川県より「神奈川県青少年育成活動推進者」として表彰された。また、金沢消防署より一般消防功労者表彰を受けた（資料68、69）。
- ・ 1、2年次から研究室で研究をする学生もおり、また、リサーチ・クラークシップ終了後も研究を継続することを奨励しており、学会や論文で発表する機会を与えている（資料17）
- ・ 毎年、海外実習（派遣プログラム）に参加した学生の「海外実習報告会」を主に下級生へ向けて開催している（資料14）。
- ・ 東日本研究医養成コンソーシアムへの学生の参加を奨励し、交通費や参加費を一部

- 負担している。その際には、教員も同行している。学生にはより一層、呼びかけ・東日本研究医養成コンソーシアムへの学生の参加を促す（資料 15）。
- ・ 横浜総合医学振興財団は、横浜市立大学医学部の学生に対し、海外又は国内で行うボランティア活動等の自主的活動や医学研修等に参加する経費の一部を助成している。2024 年度は学生団体「解剖道場」が日本解剖学会総会にて発表を行うための交通費支援など、2 件 11 名への助成を行った。
 - ・ 学生が学会発表を行った報告等を本学ホームページや俱進会だよりに掲載し、学内の意識を高揚している。

改善状況を示す根拠資料

資料 16 2024 年度医学部長賞応募要項、受賞

資料 66 YCU Student Award 2024 募集要項

資料 67 YCU Student Award 2024 表彰式 開催報告

資料 68 本学ホームページ「学生団体 YDC が神奈川県青少年育成活動推進者として表彰されました！」

資料 69 本学ホームページ「未来を救う力を育む！YDC、医療体験教室の功績で金沢消防署から表彰」

資料 17 2024 年度 学生の学会発表・論文投稿

資料 14 2024 年度「海外実習報告会」

資料 15 令和 6 年東日本研究医養成コンソーシアム開催概要

5. 教員

領域 5.2 における「改善のための助言」を受け、2025 年度新採用の基礎系教員向けに「医学科カリキュラムについて（2025 年度版）」のオンデマンド配信を新年度早い時期に実施した。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特色ある点

- ・ 学生の増員に対応するため、教育エフォートの高い「教育ユニット教員」を採用している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教育ユニット教員の採用を継続し、採用についても医学教育センター長(医学部長)

が弾力的に運用する体制となっている。

- ・ 教育ユニット教員は、医学教育センター長（医学部長）の任命のもと、エフォート50%以上の教育業務に従事するように定められている。業務内容、役割などについて、年度はじめの医学教育ユニット教員会議において、再確認している（資料70）。
- ・ 教育ユニット教員を構成員とする医学教育ユニット教員会議において、医学教育モデル・コア・カリキュラムと2年次科目をメインとした対応表の作成を行い、各科目における授業内容の点検を行った。また、ユニット教員を講師として、2年次の科目担当者を対象に「R4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム対応表作成FD」を実施した（資料71）。今後は3年生以上の対応表作成と、医学教育改革プロジェクトのメンバーとして、諸問題の改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料70 横浜市立大学医学教育センター専任教員に関する要綱

資料71 R4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム対応表作成FD

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 地域社会への問題に対応するために、総合診療医学教室の設置、および感染症対策や公衆衛生の取り組みを強化するために教員を採用している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 総合診療医学教室は、2014年度に設置され、以降、地域医療教育を実施している。当該教員は臨床推論（診断推論）、緩和医療・終末期医療をそれぞれの専門分野として授業を担当し、「地域保健医療学実習」、「社会医学」、「基本的診療技能」（医療面接）等は医学教育学教室と合同で運営をしている。
- ・ 地域社会への問題に対応するために、2025年度から「地域医療・在宅医療学講座（神奈川県による寄付講座）」を設置した。本講座は診療教授1名、特任助教1名、特任助手1名の体制をもって、「地域医療に関する調査及び人材育成、地域における教育体制等の研究を行っている。本講座では、関係機関と連携を図り、神奈川県地域医療の向上に寄与すること」を目的として、神奈川県西部地域における教育体制の検討及びその効果に関する研究や、地域医療における実践的な研修を開始している。総合診療医学教室と協働して教育を行っている（資料32）。
- ・ 新興感染症のパンデミックにおける、公衆衛生の重要性を再確認し、平常時とは異なる速さで研究を実施する必要があるという教訓も得て、今後想定される新たな新

興・再興感染症に備えるため、先端医科学研究センター内に「新興感染症研究センター」を設立し、オープンプラットフォーム「YCU 連携研究コア」にも感染症標的コアユニットを配置したうえで、トランスレーショナル研究を進めている(資料 72)。

改善状況を示す根拠資料

資料 32 神奈川県との寄附講座の設置に係る協定書

資料 72 本学ホームページ「先端医科学研究センター内に新興感染症研究センターを設立しました」

5. 2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特色ある点

- ・ ハワイ大学やシンガポール国立大学に教員を派遣して教育能力を向上させるための「海外FD」を実施し、派遣者の知見を活かしてPBLやTBLを推進していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 個々の教員は、カリキュラム全体を十分に理解した上で教育を担当すべきである。
- ・ 新任教員を対象にした FD を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 上記に該当するFDとして、以下を実施した。

日程	コンテンツ
2月7日(水)	ハワイ大学 PBL-Hawaii Style Workshop 報告会 ⇒2023 年 10 月、ハワイ大学の教員対象課題解決型学習ワークショップに参加した公衆衛生学教室後藤温教授の経験を医学部教員に共有した。
4月9日(火)	教員向け病棟実習オリエンテーション⇒新任教員を対象とした FD を実施。
5月30日(木)	2024 年春季海外臨床実習報告会 ⇒2024 年 3 月に海外へ派遣された学生による報告会を開催し、海外の大学・病院と比較することで、本学の医学カリキュラムや病棟実習の理解を促した。
9月4日(水)	海外研究実習報告会 ⇒2024 年 4 月～7 月に海外へ派遣された学生による報告会を開催し、海外の大学・病院と比較することで、本学の医学カリキュラムの理解を促した。
10月15日(火)～ 10月18日(金)	PBL-Hawaii Style Workshop ⇒がん総合医科学 窪田賢輔教授をハワイ大学(教員対象課題解決型学習ワークショップ)に派遣。
11月21日(木)	令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラムと科目の関連付けFD

	ユニット会議（オンライン）
12月下旬（オンデマンド）	医学科カリキュラムについて（2024年度版） 医学教育学教授 稲森正彦先生 ⇒医学科カリキュラムの全体像を説明する動画を多忙な教員も視聴できるよう、動画配信を行った。
2月14日～3月14日（オンデマンド配信）	2024年10月PBL-Hawaii Style Workshop 参加報告（FD） ⇒2024年10月、ハワイ大学のワークショップに参加した窪田教授の経験を医学部教員に共有した。

- ・ 医学科・看護学科合同FDにおいて「令和4年度版医学教育モデル・コア・カリキュラム」の内容の共有を行った（2024年8月5日実施、資料49）。
- ・ 高等教育推進センターから、全学のFDの情報について、全教員へ向けて発信している（資料73）。
- ・ 2025年度新採用の基礎系教員向けに「医学科カリキュラムについて（2025年度版）」のオンデマンド配信を新年度早い時期に実施できるよう計画をおこなった。
- ・ 「基幹教員制度」の本学での導入に向けて、医学科全教員を構成員とする「拡大医学教育センター会議」を設置予定であり、会議の中でカリキュラムについて共有することを検討している（資料3）。

改善状況を示す根拠資料

資料 49 医学部医学科・看護学科合同FD・SD「評価を学習者の味方に！－実習における態度評価に焦点を当てて－」

資料 73 全学FD周知メール

資料 3 「医学科における基幹教員制度の導入について」2024年12月11日教授会資料

6. 教育資源

領域 6.1 における「改善のための助言」を受け、確実な健康診断と予防接種を実施する体制作りについての改善を行った。領域 6.2 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、学生が経験した患者数・疾患分類を CC-EPOC で把握、グラフ化し、臨床・病棟部門会議、センター会議、教授会で結果を報告している。また臨床実習を行う学外一般病院の教育の質を評価し、必要に応じて改善、整備するために医学教育センターが実習内容の情報共有を行っている。領域 6.3 における「改善のための示唆」を受け、学生が臨床実習で利用できる電子カルテの整備を進めている。

6.1 施設・設備

基本的水準

特色ある点

- ・ 学生に避難経路・避難方法の周知を行っている。

改善のための助言

- ・ 学生健康診断をより確実に実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 新年度の各学年のオリエンテーションにおいて、避難経路確認テストを行った（資料 74）。
- ・ 学生・教職員を対象に、安否確認システム（オクレンジャー）を使用して、災害発生時を想定した安否・所在の確認のための訓練を実施した。（資料 75）
- ・ 健康診断の受診に関しては保健管理センターが各部署と連携し、指定する日時以外でも、健診実施日であれば健診受診できるよう機会を増やし、実習時間等の配慮の体制を整えた。
- ・ 医学部 1 年生は健康診断を受診しやすくするために授業がない日に受診日を設定し、合わせて必須で受検する抗体検査の採血も同時に実施した。新入生保護者懇談会の場でも、学生の健康診断の受診勧奨を行った（資料 76）。
- ・ 未受診者には、関係部署（保健管理センター、医学教育推進課、教員）が連携を取り外部医療機関の健康診断書を提出するよう指導している。
- ・ 2024 年度の医学科学生健康診断未受診者は 9 名／545 名だった（休学者を除く）。

改善状況を示す根拠資料

資料 74 避難経路確認テスト

資料 75 安否確認システム（オクレンジャー）

資料 76 新入生保護者懇談会次第

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生が経験した患者数・疾患分類を把握し、適切な臨床経験を積めるよう臨床実習施設を整備すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2022 年 CC-EPOC 導入後、学生が経験した患者数・疾患分類を CC-EPOC で把握、グラフ化し、臨床・病棟部門会議、センター会議、教授会で結果を報告することで、医

学科内に共有している。(資料 38)

- ・ 学外指導施設を多く管轄する「地域保健医療学実習」において年 1 回、指導をお願いしている指導者が集まる懇話会が開催され、指導内容の共有化を試みている。(資料 77)
- ・ 臨床実習を行う学外一般病院の質を担保するために、医学教育センターで実習内容の共有化を図っていく。
- ・ 適切な臨床経験を積めるような臨床実習施設を医学教育センターが中心となって把握・管理できる体制を整える。2023 年度 38 施設から 2024 年度 46 施設に増設させた (資料 78)。

改善状況を示す根拠資料

資料 38 2024 年度 6 年次 CC-EPOC 集計結果

資料 77 2024 年度「地域保健医療学実習」振り返りの会議事録

資料 78 「自由選択実習」教室紹介プログラム

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医療を受ける患者や地域住民の要請を把握し、臨床実習施設を整備、改善することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学外指導施設を多く管轄する「福祉施設実習」及び「地域保健医療学実習」において、学生は直接患者や家族、医療福祉従事者等から、主に望ましいコミュニケーションについてのフィードバックを受け、その内容は、実習のまとめの時間に共有される。学生からの報告やレポートを基に学内教員と外部教員が討議し、地域住民の要請に応じた医療が実施できるような実習内容の見直しが図られている(資料 79、80、77)。
- ・ 患者さんの声、投書、患者会からの要望は各教員を通じて各教室で討議され臨床実習施設の整備、改善に役立てている。
- ・ 「地域保健医療学実習」においては、病棟実習アンケートを用いて学生が学外指導施設の教員を評価している。(資料 81)

改善状況を示す根拠資料

資料 79 福祉施設実習報告会

資料 80 福祉施設実習発表会参加者リスト

資料 77 2024 年度「地域保健医療学実習」振り返りの会議事録

資料 81 「地域保健医療学実習」病棟実習アンケート

6.3 情報通信技術

基本的水準

特色ある点

学生、教職員全員を対象に Web 会議ツールの有料アカウントを契約し、利便性を図っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2023 年度、2024 年度、2025 年度も全学生および希望する教職員に Web 会議ツールの有料ライセンスを付与し、利便性を図っている。(資料 82)
- ・ 2019 年から、セキュリティソフトおよび オフィススイートを、教職員に加えて学生についても各自の PC に無償でインストールして利用できるようにし、利便性を図っている。

改善状況を示す根拠資料

資料 82 Zoom アカウント登録について

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 診療参加型臨床実習の質を高めるために、学生が電子カルテに記載できるシステムを採用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2026 年度に大学附属 2 病院の医療情報システムを統合する予定であり、次期システムでは学生がカルテに記載できる機能を組み込む予定としている。2025 年度関係諸会議での審議へ向けて、調整を行っている。

改善状況を示す根拠資料

6. 4 医学研究と学識

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 4年次の「リサーチ・クラークシップ」で、海外の研究室に学生を派遣している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 令和6年度「研究実習（リサーチ・クラークシップ）」において、7名（ウェイン州立大学2名、テンプル大学2名、スタンフォード大学1名、コーネル大学1名、ハーバード大学1名）の海外派遣を行った。グローバル推進部門を中心に派遣先の拡充、見直しを適宜行っている（資料83）。

改善状況を示す根拠資料

資料83 2024年度「研究実習（リサーチ・クラークシップ）」配属先

6. 5 教育専門家

基本的水準

特色ある点

- ・ 医師以外の教育専門家を教育専任の「学務准教授」として採用し、助言を得ていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2017年度に学内外の教育専門家で構成する「教育プログラム評価委員会」を設置した。プログラム評価委員会での検討内容を医学教育推進部門へフィードバックし、医学教育センターの運営に反映できる仕組みを構築している。また2018年度から、他学部の教育の専門家として、生命ナノシステム科学研究科およびアドミッションズセンター長を兼務する教授を構成員に加えている。「教育プログラム評価委員会」での検討内容が医学教育センターの運営に反映しているかの評価を継続的に行っていく。（資料50、45）

- ・ 医学部医学科教授会（代議員会）および医学教育センター会議、医学群教学 IR 検討ワーキングに、アドミッションズセンター専門職員（学務准教授）が出席している。（資料 41）
- ・ 学内の医学教育学会認定医学教育専門家の数を増加させており、必要な時にアクセスできる体制を整え、引き続き、内外の教育専門家から助言を得られる仕組みを維持する。

改善状況を示す根拠資料

資料 50 横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程

資料 45 令和 6 年度医学部医学科プログラム評価委員会議事録

資料 41 令和 7 年度医学群教学 IR 検討ワーキング構成員一覧

6. 6 教育の交流

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 医学部より予算を措置し、継続してハワイ大学やシンガポール国立大学へ教員派遣をしている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2014 年度から、ハワイ大学へ継続的な教員派遣を行っている。2024 年度は、1 名の教員を PBL workshop へ参加させた。また、帰国後、参加した教員の体験を医学部教員に共有するため、報告会の開催や報告動画の配信を行った（資料 84－87）。

日程	実施内容
2024 年（令和 6 年） 2 月 7 日（水）	ハワイ大学 PBL-Hawaii Style Workshop 報告会 ⇒2023 年 10 月、ハワイ大学の教員対象課題解決型学習ワークショップに参加した公衆衛生学教室後藤温教授の経験を医学部教員に共有した。
10 月 15 日（火）～ 10 月 18 日（金）	PBL-Hawaii Style Workshop ⇒がん総合医科学 窪田賢輔教授をハワイ大学（教員対象課題解決型学習ワークショップ）に派遣。
2025 年（令和 7 年） 2 月 14 日～3 月 14 日（オンデマンド配信）	2024 年 10 月 PBL-Hawaii Style Workshop 参加報告（F D） ⇒2024 年 10 月、ハワイ大学のワークショップに参加した窪田教授の経験を医学部教員に共有した。

- ・ ハワイ大学での workshop 参加経験教員は、本学の「症候・病態」の授業での TBL など、指導法を他の教員に伝授するなどして、学生の能動的学習を促す教育活動を推進している。
- ・ 他大学や海外での研修会、フォーラム等に教員を派遣できるよう、引き続き予算を確保するとともに、周知活動を行い、多くの参加者を募り、その成果を学内に還元する。学生への交流支援は、学生も参加する部門会議等で継続的に検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 84 20240207 ハワイ大学 PBL 報告会開催報告

資料 85 PBL-Hawaii Style Workshop 概要

資料 86 2024 年ハワイ大学 PBL 募集要項

資料 87 202502-03 ハワイ大学 PBL 報告会開催報告動画案内

7. 教育プログラム評価

IR 部門の活動を活性化し、多角的な情報収集とデータ解析により教育プログラムのモニタと評価を行い、改訂に努める事が最重要課題である。IR 部門は 2018 年度に医学群教学 IR 検討ワーキングを正式に設置し、稼働し始めたものの喫緊の短期的課題対応が最優先事項となっており、継続的な情報収集や卒業生の業績の集約等から見えてくるような中長期的課題までは対応できていない。各医学部門会議や医学教育センター会議より提起された課題を IR 部門がデータ収集並びに解析し、プログラム評価委員会で改訂案を策定発議し、意思決定機関である教授会で審議し改訂案を成立して施行するプロセスを構築する事で、継続的な教育プログラムの評価に繋げていきたい。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特色ある点

- ・ 「プログラム評価委員会」および「教学 IR 部門」を設置している。

改善のための助言

- ・ 「プログラム評価委員会」の活動を実質化し、教育プログラム改善につなげるべきである。
- ・ 教育プログラム評価に必要なデータを特定し、その収集・分析をもとにした評価結果をカリキュラムに確実に反映させるシステムを構築すべきである。
- ・ 「プログラム評価委員会」と「教学 IR 部門」との連携を密にして、それぞれの機能をより充実させるべきである。
- ・ 教育課程と学修成果に関するデータを定期的にモニタし、教育プログラムを評価すべきである。

- ・ カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩、課題の特定と対応の観点から教育プログラムを評価すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 「プログラム評価委員会」と「教学 IR 部門」との連携を密にするため、2024 年度に「横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程」を改正し、医学群教学 IR 検討ワーキングの代表者をプログラム評価委員会のメンバーとして追加した（資料 50）。
- ・ 臨床実習において、CC-EPOC を用いて学生の進捗確認、課題の特定を行っており、病棟実習部門にて、対応の検討、教育プログラムの評価・改善を行っている（資料 38）。
- ・ 各部門会議において定期的にカリキュラムについて評価し、2 年生のカリキュラムが過密なことから、解剖学や生理学の一部を 1 年生へ移動することを検討している。
- ・ 試験スケジュールが過密なことから、分散して実施できるように各部門会議が中心となり検討している。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 50 横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程

資料 38 2024 年度 6 年次 CC-EPOC 集計結果

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任の観点から、評価に必要なデータを特定し、定期的、包括的に教育プログラムの評価を確実に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 「プログラム評価委員会」と「教学 IR 部門」との連携を密にするため、2024 年

度に「横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程」を改正し、医学群教学 IR 検討ワーキングの代表者をプログラム評価委員会のメンバーとして追加した（資料 50）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 50 横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生に対して、授業評価アンケートだけでなく、カリキュラムの主要な構成要素に関するフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。
- ・ 幅広い教員と学生から定期的にフィードバックを受け、その分析結果を教育プログラムの改善につなげるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 「プログラム評価委員会」と「教学 IR 部門」との連携を密にするため、2024 年度に「横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程」を改正し、医学群教学 IR 検討ワーキングの代表者をプログラム評価委員会のメンバーとして追加した（資料 50）。
- ・ 学生からカリキュラムに関する意見を広く聴取できるよう、各部門会議や医学教育プログラム評価委員会へ学生が参加し、定期的にフィードバックを受けている。また、2025 年 7 月から学生が医学教育センター会議へ参加するよう調整した（資料 40）。学生は学年全体の意見を取りまとめたうえで部門会議等に参加しているほか、年に数回、「学生懇談会」を実施し、学生と教員が意見交換を行っている（資料 88）。
- ・ 学生からのカリキュラム評価は、学生アンケート、担任の聞き取り調査、学生懇談会等から収集している。教員からのカリキュラムに対する評価は、各部門会議等で収集している。2024 度は、2 年生科目が過密となっていることへの対応、学生の読解力の低下に対する懸念などが議題となった（資料 89）。
- ・ 「研究実習（リサーチ・クラークシップ）」において、学外派遣先の指導教員から

も、カリキュラムについてフィードバックを受けている。

- ・ 臨床実習において、CC-EPOC を用いて学生の進捗確認、課題の特定を行っており、臨床・病棟部門において、対応の検討、教育プログラムの評価・改善を行っている（資料 38）。
- ・ 教育成果は各学年の進級試験、共用試験、卒業試験、医師国家試験等を通じて学生の習熟度のモニタリングが行われている。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 50 横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程

資料 40 2025 年度医学教育センター会議構成員一覧

資料 88 2024 年度第 1 回、第 2 回学生懇談会記録

資料 89 2024 年度第 5 回基礎医学部門会議議事録

資料 38 2024 年度 6 年次 CC-EPOC 集計結果

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 幅広い教員と学生から得たフィードバックに基づき、教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 「プログラム評価委員会」と「教学 IR 部門」との連携を密にするため、2024 年度に「横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程」を改正し、医学群教学 IR 検討ワーキングの代表者をプログラム評価委員会のメンバーとして追加した（資料 50）。
- ・ 学生からカリキュラムに関する意見を広く聴取できるよう、各部門会議や医学教育プログラム評価委員会へ学生が参加し、定期的にフィードバックを受けている。また、2025 年 7 月から学生が医学教育センター会議へ参加するよう調整した（資料 40）。学生は学年全体の意見を取りまとめたうえで部門会議等に参加しているほか、年に数回、「学生懇談会」を実施し、学生と教員が意見交換を行っている（資料 88）。
- ・ 学生からのカリキュラム評価は、学生アンケート、担任の聞き取り調査、学生懇談

会等から収集している。教員からのカリキュラムに対する評価は、各部門会議等で収集している。2024 度は、2 年生科目が過密となっていることへの対応、学生の読解力の低下に対する懸念などが議題となった。2 年生のカリキュラムについては、一部の講義を 1 年生へ移動させることを検討している（資料 89）。

- ・ 「臨床実習（リサーチ・クラークシップ）」において、学外派遣先の指導教員からも、カリキュラムについてフィードバックを受けている。
- ・ 臨床実習において、CC-EPOC を用いて学生の進捗確認、課題の特定を行っており、臨床・病棟部門において、対応の検討、教育プログラムの評価・改善を行っている（資料 38）。
- ・ 教育成果は各学年の進級試験、共用試験、卒業試験、医師国家試験等を通じて学生の習熟度のモニタリングが行われている。
- ・ 「研究実習（リサーチ・クラークシップ）」の発表形式について、基礎医学部門会議において教員と学生で議論し、2025 年度は学会発表に即したスタイルでの発表形式とした（資料 90）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 50 横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程

資料 40 2025 年度医学教育センター会議構成員一覧

資料 88 2024 年度第 1 回、第 2 回学生懇談会記録

資料 89 2024 年度第 5 回基礎医学部門会議議事録

資料 38 2024 年度 6 年次 CC-EPOC 集計結果

資料 90 2025 年度第 1 回基礎医学部門会議議事録

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 卒業生の実績を収集・分析するシステムを構築し、実施すべきである。
- ・ 使命と学修成果、カリキュラム、資源の提供の観点から学生と卒業生の実績を収集し分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。

- ・ 「プログラム評価委員会」と「教学 IR 部門」との連携を密にするため、2024 年度に「横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程」を改正し、医学群教学 IR 検討ワーキングの代表者をプログラム評価委員会のメンバーとして追加した（資料 50）。
- ・ 医学群教学 IR 検討ワーキングにおいて、卒業生アンケートの実施に向けた検討を行った。プログラム評価委員会においても、卒業生アンケートの実施に向けた検討していることについて情報共有し、同窓会組織へも協力を依頼した（資料 44、45）。
- ・ 卒業時にカリキュラム評価についてのアンケートを実施することについても検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 50 横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程

資料 44 医学群教学 IR 検討ワーキング議事録

資料 45 2024 年度医学部医学科プログラム評価委員会議事録

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 入試区分、入試成績から見た学生の実績を分析し、関係委員会へフィードバックしている。

改善のための示唆

- ・ 背景と状況、入学資格の観点から、学生と卒業生の実績を収集・分析することが望まれる。
- ・ カリキュラム立案、学生カウンセリングについて学生の実績を分析し、その結果を責任ある委員会にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 医学群教学 IR 検討ワーキングにおいて、卒業生アンケートの実施に向けた検討を行った。プログラム評価委員会においても、卒業生アンケートの実施に向けた検討していることについて情報共有し、同窓会組織へも協力を依頼した（資料 44、45）。
- ・ 学生担任面談結果ついて、各部門会にて毎月報告、対応がされており（資料 91）、医学教育センター会議においてもその報告、対応がされている。また、バリアフリー支援室から、合理的配慮が必要な学生などについて、説明、対応がされている。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 44 医学群教学 IR 検討ワーキング議事録

資料 45 2024 年度医学部医学科プログラム評価委員会議事録

資料 91 2024 年度第 11 回教養教育部門会議議事録（学年担任報告）

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準

特色ある点

- ・ 教育プログラムのモニタと評価に関わる「プログラム評価委員会」に、学生を含む教育に関わる主要な構成者が参加している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学生からカリキュラムに関する意見を広く聴取できるよう、各部門会議（教養教育部門、基礎医学部門、臨床・病棟部門）や外部評価委員会として実施している「医学教育プログラム評価委員会」へ学生を参加させ、意見を聴取している（資料 45、50）。また、2025 年 7 月から学生が医学教育センター会議へ参加するよう調整した（資料 40）。

改善状況を示す根拠資料

資料 45 2024 年度医学部医学科プログラム評価委員会議事録

資料 50 横浜市立大学医学部医学科プログラム評価委員会規程

資料 40 2025 年度医学教育センター会議構成員一覧

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 広い範囲の教育の関係者が教育プログラムの評価の結果を閲覧できる体制を整え、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育の諸課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料 2）。
- ・ 「基幹教員制度」の本学での導入に向けて、医学科全教員を構成員とする「拡大医学教育センター会議」を設置予定であり、会議の中でカリキュラムについて点検することを検討している（資料 3）。公開の範囲、体制については引き続き検討を行っていく。
- ・ 有美会（献体団体）の総会において、会員向けに学生団体解剖道場が活動内容の発表を行っている（資料 92）。

改善状況を示す根拠資料

資料 2 医学教育改革プロジェクトについて

資料 3 「医学科における基幹教員制度の導入について」令和 6 年 12 月 11 日教授会資料

資料 92 有美会総会 解剖道場発表資料

8. 統轄および管理運営

領域 8.1「改善のための助言」を受け、医学教育を統轄する組織である「医学教育センター」が中心となって、教育の評価・改善や、教育の内容、方法及び実施など、教育のあり方について幅広く検討を進めていく。

8.1 統轄

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医学教育を統轄する組織の位置づけ、役割と権限をより明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育を統轄する組織として「医学教育センター」を設置しており、センター長は医学部長が務めている（資料 93）。同センターでは教育の評価・改善や、教育の内容、方法及び実施など、教育のあり方について幅広く検討を行っている。

改善状況を示す根拠資料

資料 93 公立大学法人横浜市立大学医学教育センター設置規程

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育を統轄する委員会組織において、学生に加え、その他の教育の関係者の意見をより反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2025 年 7 月の医学教育センター会議から、2・4・6 年次の学生が参加するよう調整した（資料 40）。
- ・ 「基幹教員制度」の本学での導入に向けて、医学科全教員を構成員とする「拡大医学教育センター会議」を設置予定であり、会議の中で最終的なカリキュラム案の協議をすることを検討している（資料 3）。

改善状況を示す根拠資料

資料 40 2025 年度医学教育センター会議構成員一覧

資料 3 「医学科における基幹教員制度の導入について」2024 年 12 月 11 日教授会資料

8. 2 教学における執行部

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教学における執行部の評価を、医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教学に係る自己点検評価シートを作成し、PDCA サイクルに基づき自主点検を行った。結果を執行部参加の「自己点検評価委員会」で報告している。また、会議内での執行部からの助言を踏まえ、次年度の自己点検自己評価シートに活かしている（資料 94）。

改善状況を示す根拠資料

資料 94 2024 年度自己点検自己評価シート

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特色ある点

- ・ 2019 年度から「医学教育センター長裁量経費」を新設し、学修環境の改善に充てている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2024 年度は医学教育センター長裁量経費を利用し、学習環境整備（西日対策のカーテン取り付け、ヘボンホール床のカビ対策集中清掃、学生ロッカー前室への電子錠取り付け等）を行った。引き続き「医学教育センター長裁量経費」を活用し、医学教育の向上に向けて優先順位の高いものから施策として実装していく（資料 95、45）。

改善状況を示す根拠資料

資料 95 2024 年度医学教育センター長裁量経費の募集について

資料 45 2024 年度医学部医学科プログラム評価委員会議事録

質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 教員評価制度に基づき、学長表彰を行っている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学長表彰においては、「教員部門」と共に「教職協働部門」を設けることで、教職協働の重要性を浸透させると共に、表彰を行うことによる教職員の更なるモチベーション向上を図っている（資料 96）。

改善状況を示す根拠資料

資料 96 2024 年度理事長・学長表彰の実施について

8. 5 保健医療部門との交流

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 組織として地域社会や行政機関とより建設的な交流をもつべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 1 年次「福祉施設実習」では、特別養護老人ホーム、重症心身障害者施設における介護等の実習を通して、福祉の役割や意義を学び、施設入所者の方との交流を通して、ヒューマン・リレーションについて体験的に学習させている。また実習終了後には報告会を開催し、実習協力機関の方々にも参加いただいている（資料 34、79、80）。
- ・ 3 年次には、「地域保健医療学」「疫学・予防医学」にて、地域医療の考え方について、双方向性の講義、実習を通して習得している（資料 27、21）。
- ・ 6 年次では2週間の「地域保健医療学実習」を全員必修とし、地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護の機能、体制を踏まえ、地域における医療や保健活動を体験的に学び、各々の現状や連携の必要性を理解させている（資料 97）。

改善状況を示す根拠資料

資料 34 2024 年度 1 年生「福祉施設実習」シラバス

資料 79 福祉施設実習報告会

資料 80 福祉施設実習発表会参加者リスト

資料 27 2024 年度教育要項 3 年生「地域保健医療学」シラバス

資料 21 2024 年度教育要項 3 年生「疫学・予防医学」シラバス

資料 97 2024 年度教育要項 6 年生「地域保健医療学実習」シラバス

9. 継続的改良

全体を通じて、明らかになった課題を改善できるよう努める必要がある。特に「教育学 IR 部門」でデータ分析し、教育プログラムの改善を提案する資料を作成したうえで、「医学教育センター」では収集した資料を基に総合的な改善案を選定し、「プログラム評価委員会」において内外からの指摘を受けることで、よりよい教育プログラムに至るよう推進していきたい。

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育プログラムの内容を定期的・包括的に見直し、明らかになった課題を教育プログラムに確実に反映させるべきである。
- ・ 教育プログラムの継続的改良を行うために、「医学教育センター会議」、「プログラム評価委員会」、「教学IR部門」の位置づけ、役割と権限を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2年次科目の過密化や留年生増加など、医学教育の現状と課題に対応するため、医学教育改革プロジェクトを立ち上げた（資料2）。
- ・ 「教学 IR 部門」でデータ分析し、教育プログラムの改善を提案する資料を作成したうえで、「医学教育センター」では収集した資料を基に総合的な改善案を選定し、「プログラム評価委員会」において内外からの指摘を受けることで、よりよい教育プログラムに至るよう順序だてた検討を進めている。

改善状況を示す根拠資料

資料2 医学教育改革プロジェクトについて